

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年8月21日

予報期間：8月23日～9月22日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

全国的に、向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。また、北・東・西日本では、期間の前半は降水量の少ない状態が続く所があるでしょう。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
北日本太平洋側、東日本、西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報

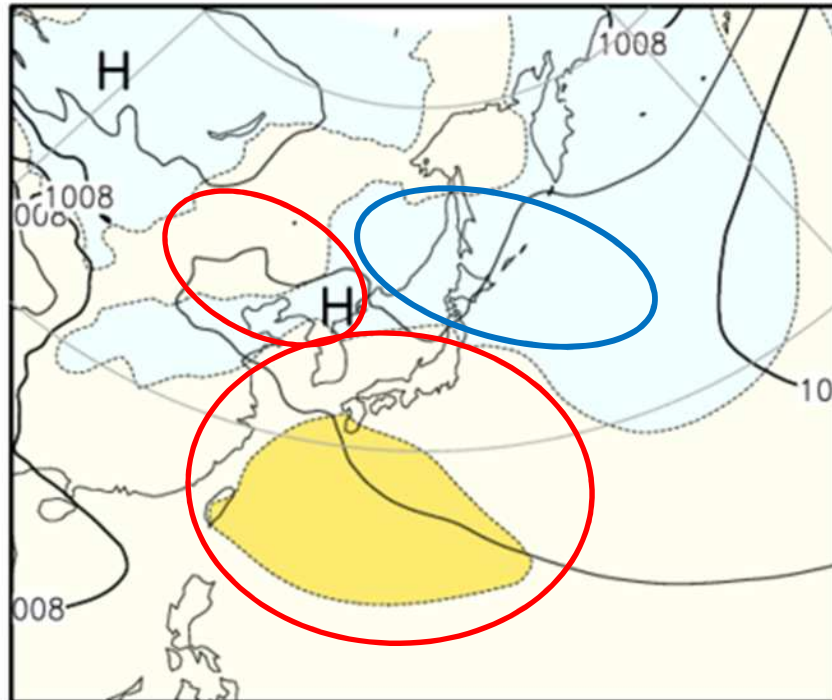
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:20:70	20:40:40 30:30:40	30:30:40 20:40:40	
東日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	40:30:30 40:40:20	20:30:50 10:30:60	
西日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	40:40:20 40:40:20	10:30:60 10:30:60	
沖縄・奄美		10:20:70	40:40:20	20:40:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:10:80	10:30:60	10:30:60
東日本	10:10:80	10:10:80	10:30:60
西日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
沖縄・奄美	10:30:60	10:20:70	10:20:70

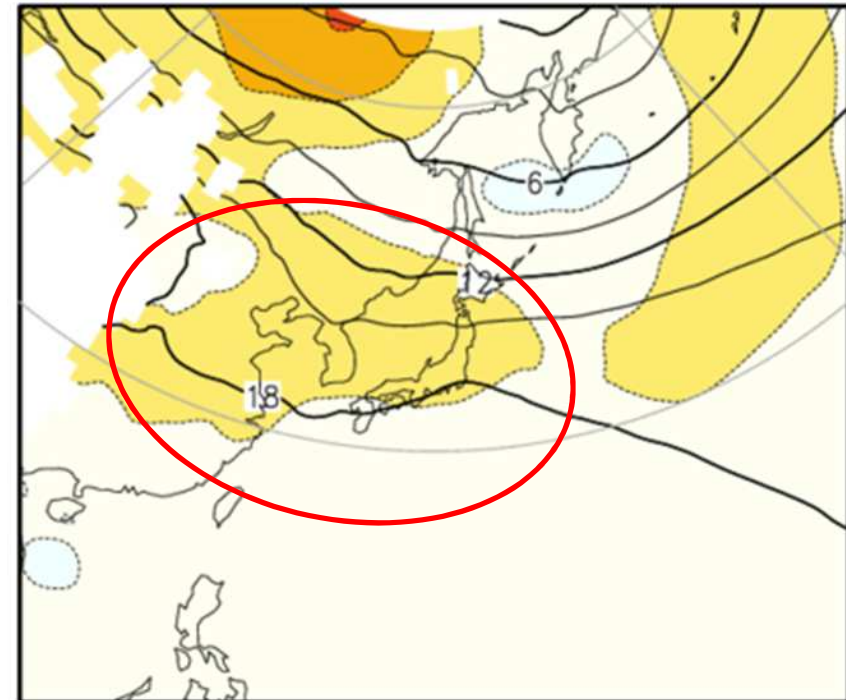
全般予報のポイント

- ・北・東・西日本では、6月中旬以降、暖かい空気に覆われ、気温のかなり高い状態が続いています。向こう1か月の気温も、全国的に暖かい空気に覆われやすいため、高い状態が続くでしょう。全国的に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・北・東・西日本では、6月下旬以降、高気圧に覆われ、降水量の少ない状態が続いている所があります。向こう1か月の降水量も、全国的に高気圧に覆われやすいため、東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では平年並か少ないでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、東・西日本では多く、北日本太平洋側と沖縄・奄美では平年並か多いでしょう。
- ・北日本日本海側では、低気圧や前線の影響を受ける時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

海面気圧(1か月)

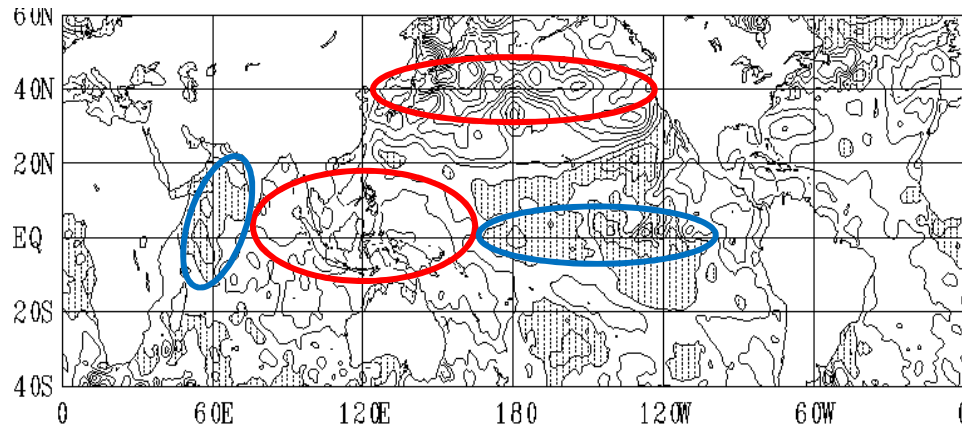


上空約1500mの気温(1か月)



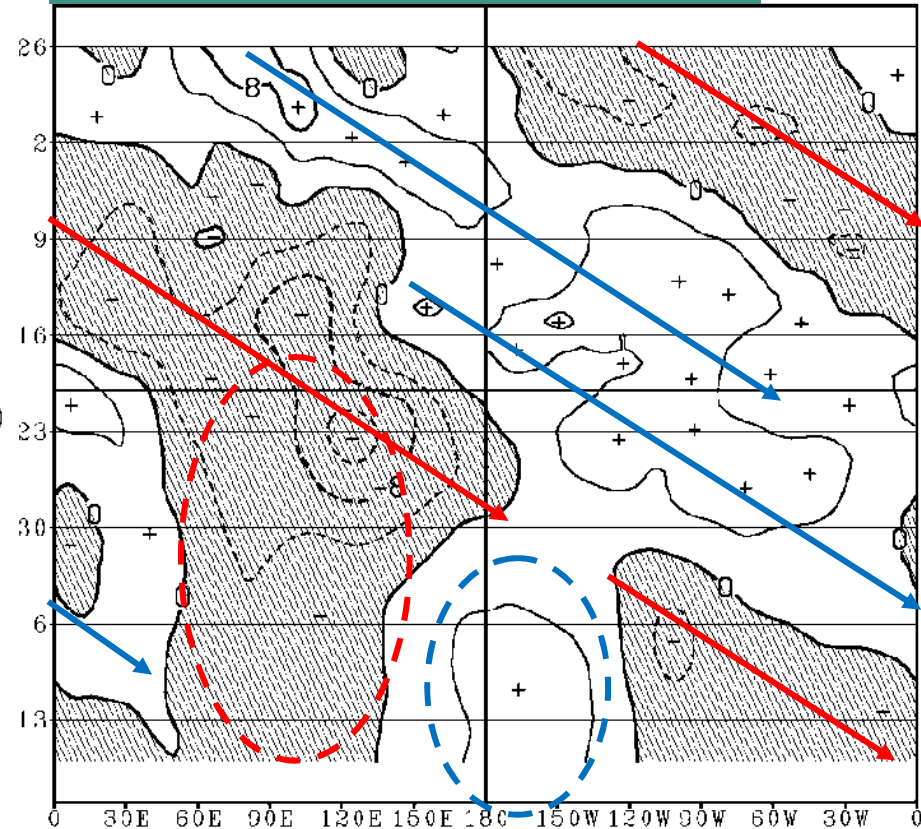
1か月平均の海面気圧(左図)は、太平洋高気圧が日本の南から東・西日本と沖縄・奄美を中心に張り出すと予測されています。また、北・東日本付近では移動性高気圧に覆われる時期もあるとみられます。このため、全国的に高気圧に覆われやすいでしょう。一方、北日本付近は平年より気圧が低く、北日本日本海側を中心に低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある見込みです。上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高いと予測されています。

SST偏差



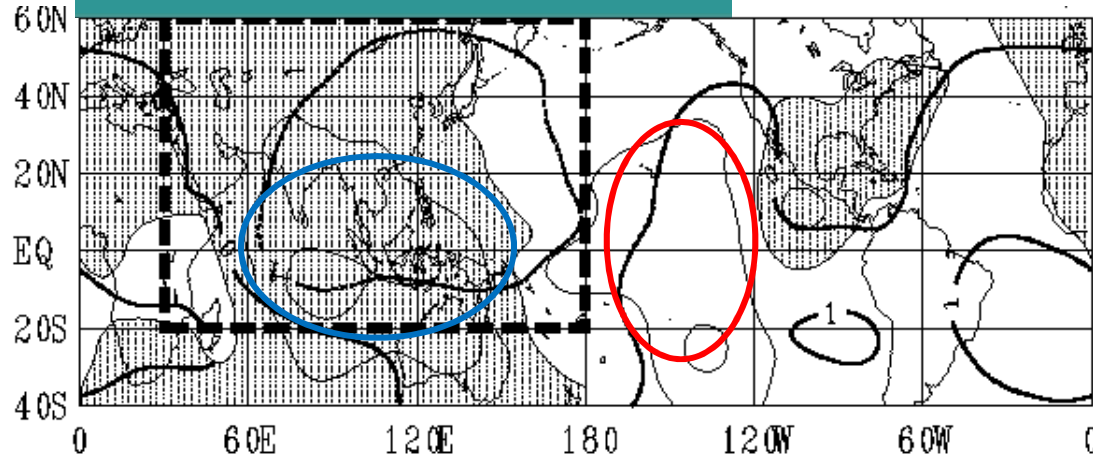
熱帯域では、インド洋東部から太平洋西部で正偏差。一方、インド洋西部と、太平洋赤道域の中部を中心に負偏差。日本海から北太平洋中緯度帯で広く正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



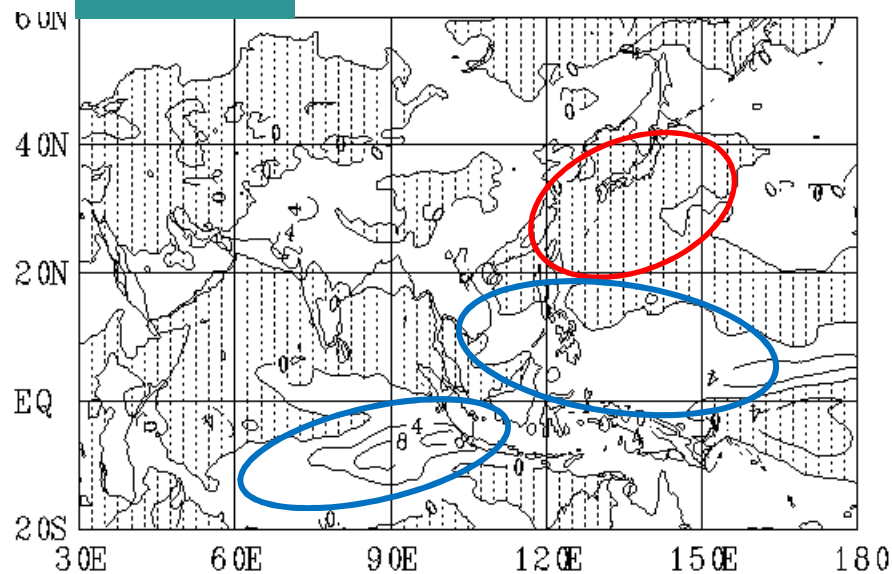
対流活発域は強弱があるが東南アジアから大西洋へ東進。また、インド洋からインドネシア付近で対流活発域が継続。

200hPa速度ポテンシャル



海面水温偏差の分布に対応して、インド洋東部からインドネシア付近で上層発散偏差。一方、太平洋熱帯域の中部で上層収束偏差。

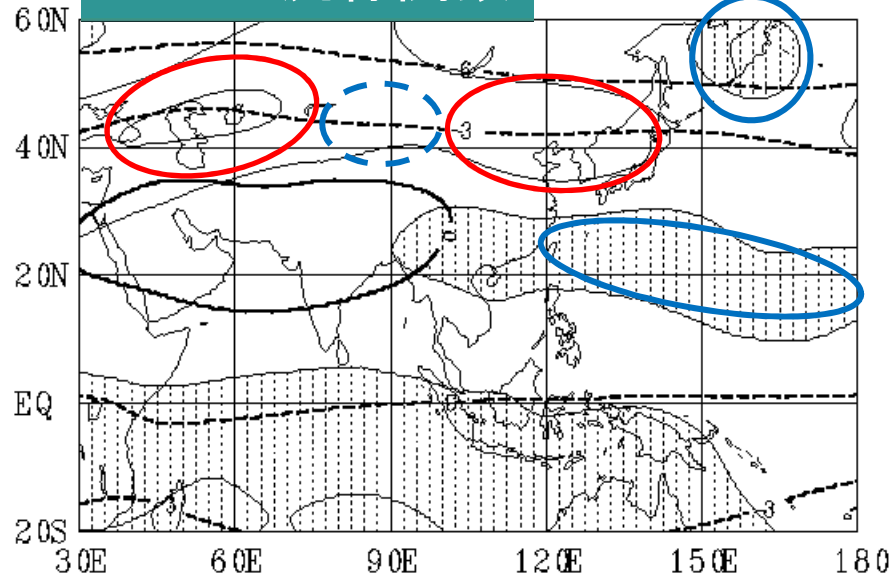
降水量



インド洋熱帯域の南東部と、インドシナ半島からフィリピンの東にかけて多雨偏差。
日本の南から本州付近にかけて少雨偏差。

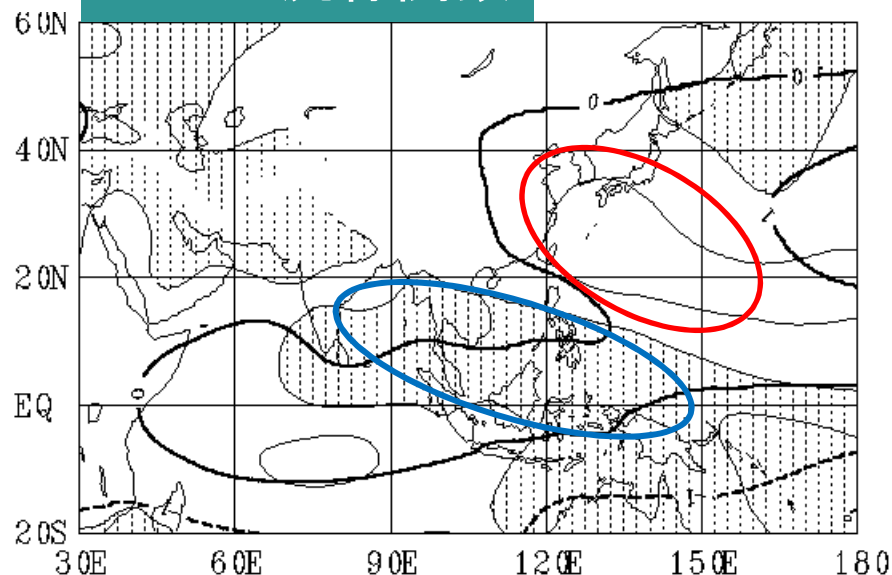
予報資料の解釈 1か月(8/23~9/19)

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流に沿って波列パターンが見られ、中国東北区付近で高気圧性循環偏差。カムチャツカ半島付近で低気圧性循環偏差。平均的には、ユーラシア大陸から太平洋の中緯度帯は高気圧性循環偏差で、亜熱帯ジェット気流は北偏して流れる。
日本の南では低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

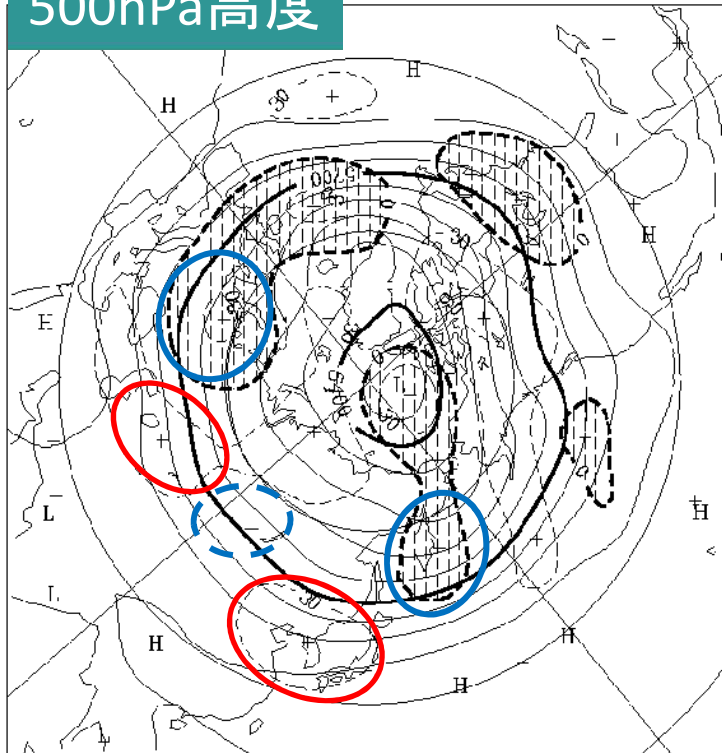


対流活動に対応して、インド洋東部からインドネシア付近にかけて低気圧性循環偏差。

沖縄・奄美付近には対流活動の影響を受けて強められた高気圧性循環偏差、東・西日本付近には、波束伝播の影響で強められた順圧的な高気圧性循環偏差。両者が合わさって、太平洋高気圧が日本の南で西へ張り出すとともに、日本付近を覆いやすいことを示している。

予報資料の解釈 1か月(8/23~9/19)

500hPa高度

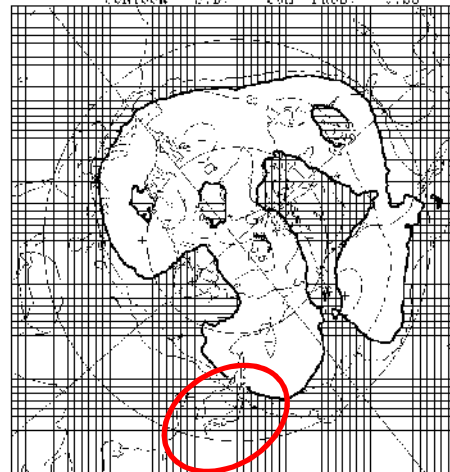
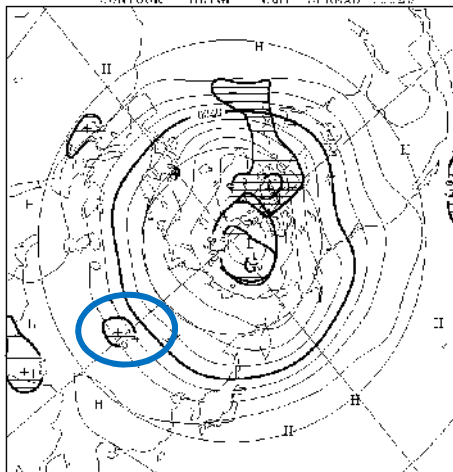


500hPa SPREAD AND LIGHT

CONTOUR HEIGHT: 600m SPREAD: 1.25

PROJ. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB: 1.25

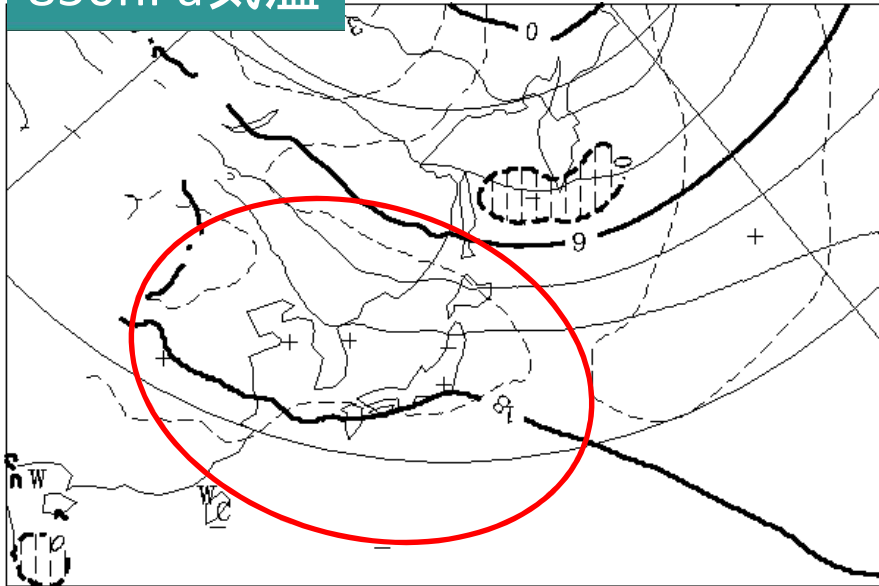


朝鮮半島付近の正偏差とカムチャツカ半島付近の負偏差は、亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播により、期間前半に強化され、期間後半にかけても勢力を維持する。これらの動向が北日本を中心とした気温の変動に影響を与える。

日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域におおむね覆われる。日本の上流にあたるモンゴル付近でスプレッドの大きい領域を予測。亜熱帯ジェット気流沿いの波列パターンに予測の不確実性がある。

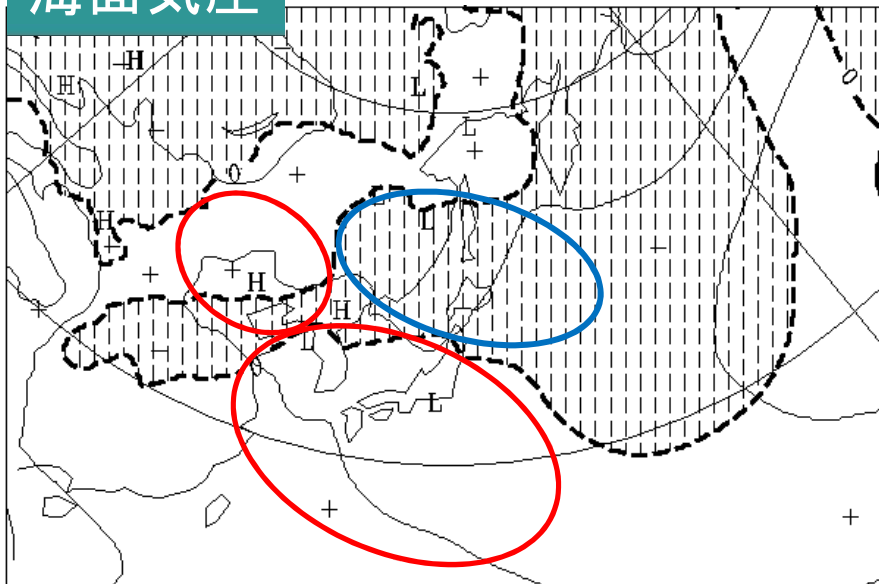
予報資料の解釈 1か月(8/23~9/19)

850hPa気温



日本付近は正偏差域に覆われる。

海面気圧

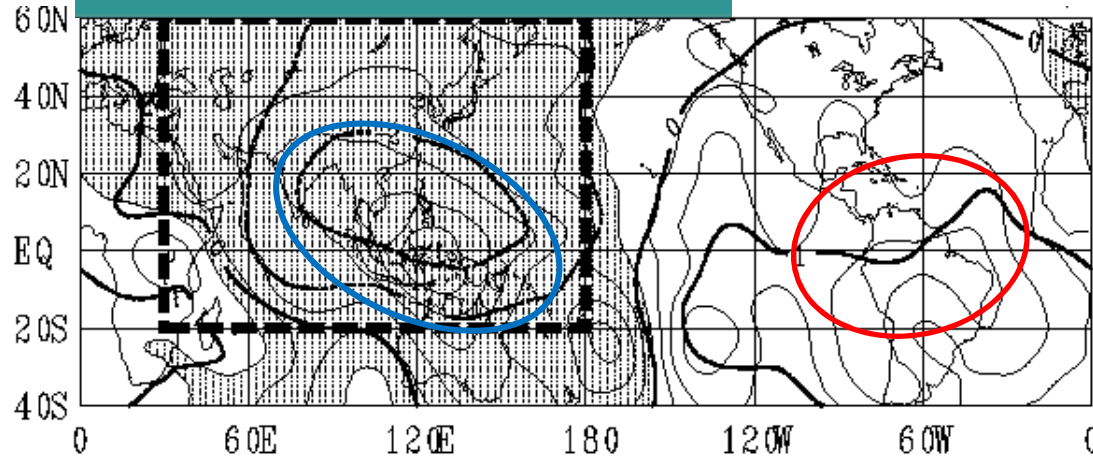


本州付近から沖縄・奄美付近にかけてと中国大陆で正偏差で、高気圧に覆われやすい。日本の東海上に中心を持つ太平洋高気圧に覆われる時期と北・東日本を中心に移動性高気圧に覆われる時期がある見込み。

一方、北日本付近は負偏差になっており、北日本日本海側を中心に低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある見込み。

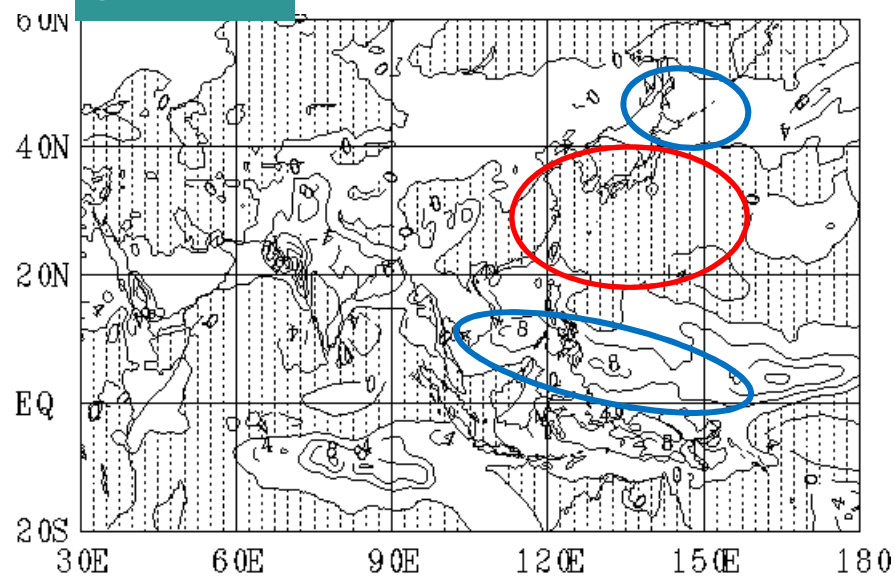
予報資料の解釈 1週目(8/23~8/29)

200hPa速度ポテンシャル



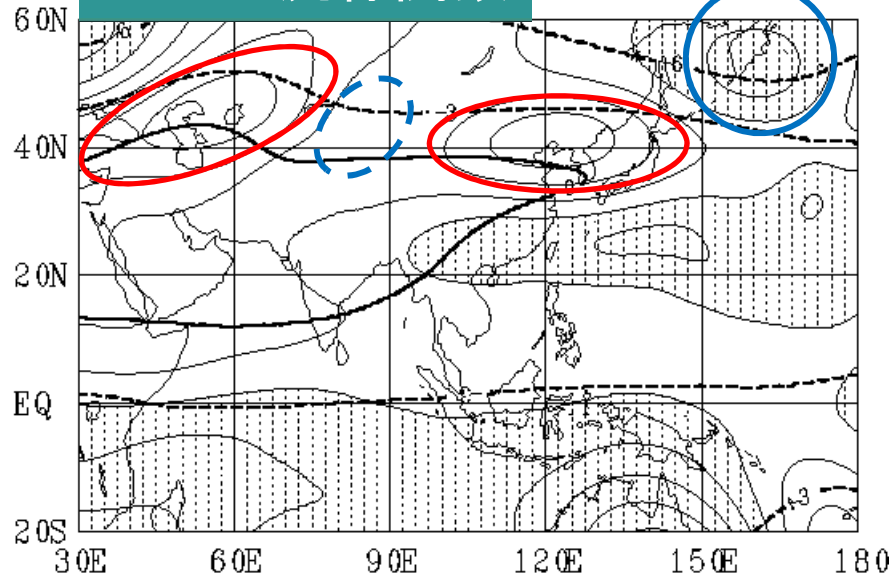
インドネシア付近で上層発散
偏差。南米で上層収束偏差。

降水量



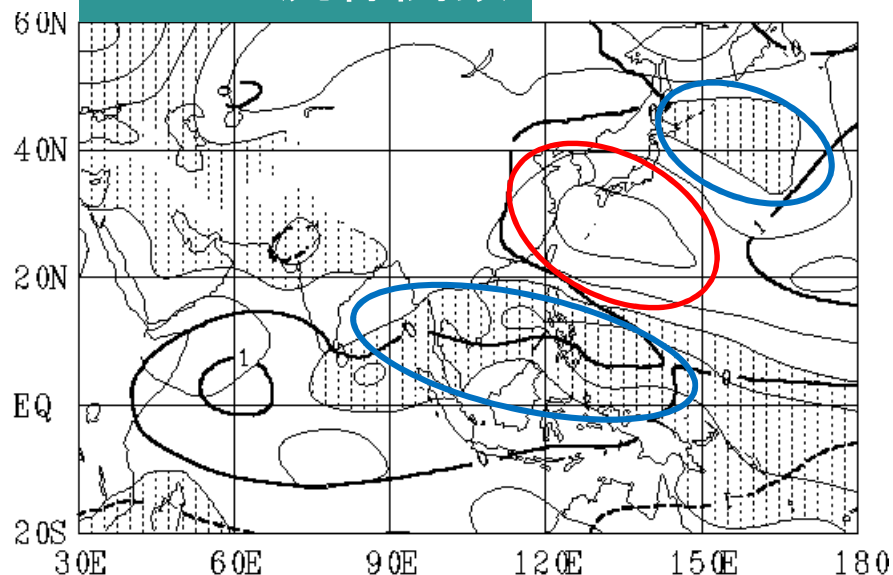
フィリピン付近からフィリピンの
東で多雨偏差。日本の南から
本州付近は少雨偏差。
一方、北海道付近を中心に多
雨偏差。

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の影響により、中国東北区付近で高気圧性循環偏差。カムチャツカ半島付近で低気圧性循環偏差。

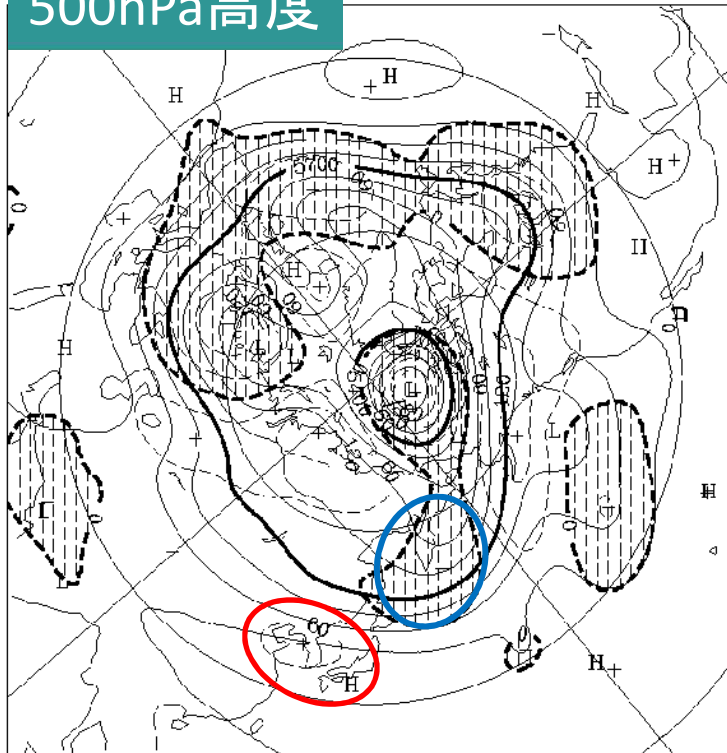
850hPa流線関数



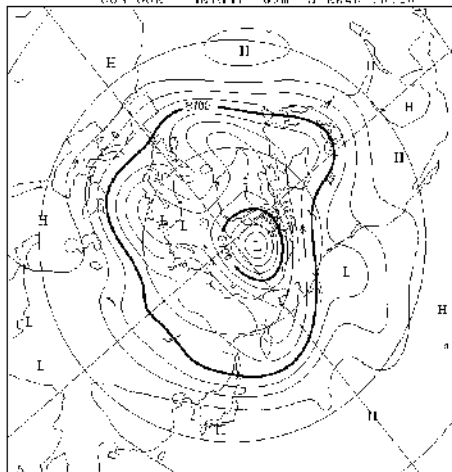
インド洋東部からフィリピンの東を中心に低気圧性循環偏差。日本の南から東シナ海にかけては高気圧性循環偏差。本州付近は順圧的な高気圧性偏差。千島近海から日本の東で低気圧性循環偏差。

予報資料の解釈 1週目(8/23~8/29)

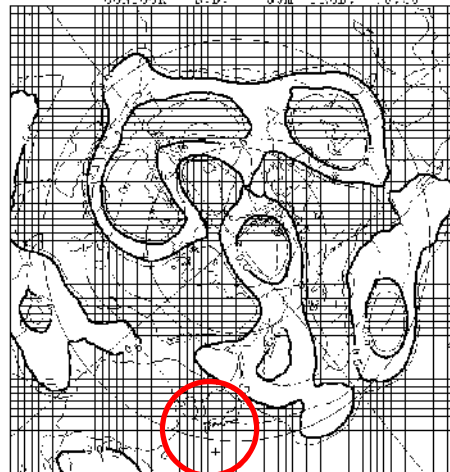
500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20



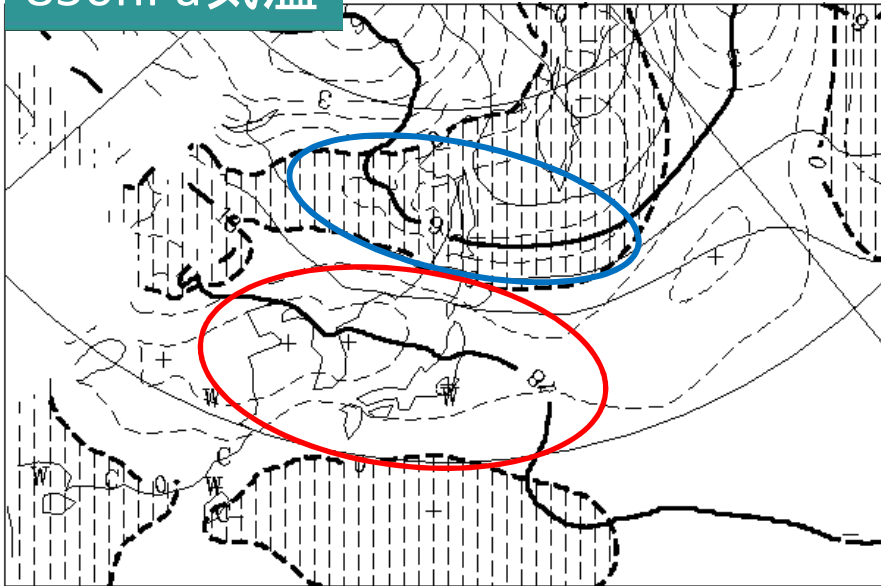
PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の影響により、朝鮮半島付近の正偏差とカムチャツカ半島付近の負偏差が強まる。日本付近は正偏差に覆われる。一方、カムチャツカ半島付近の負偏差域が北海道の一部にかかる。

日本付近は北海道を除き、正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

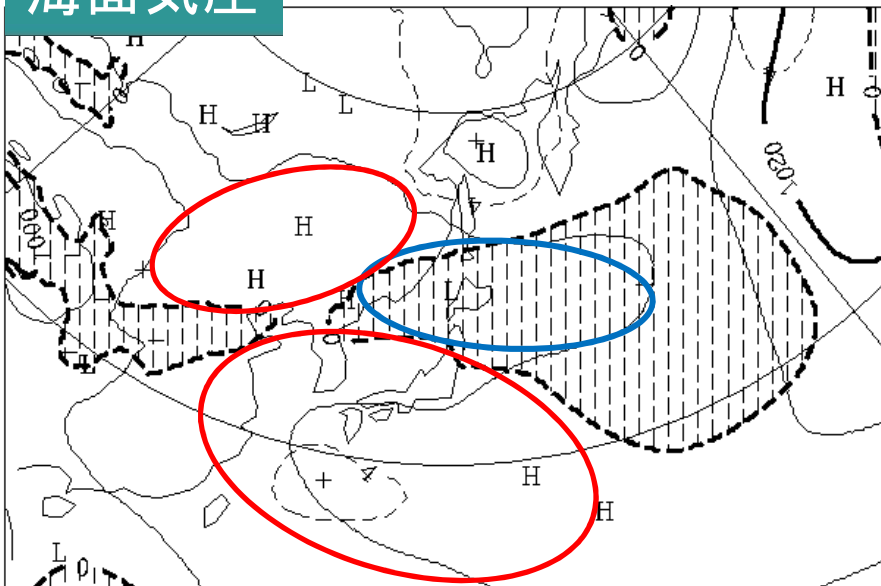
850hPa気温



日本付近は正偏差域に覆われる。

オホーツク海の負偏差域は、北海道への広がり小さい。
沖縄・奄美付近は負偏差域に覆われるが、偏差は小さい。

海面気圧



本州付近から沖縄・奄美付近にかけてと中国大陆で正偏差で、高気圧に覆われやすい。
日本の東海上に中心を持つ太平洋高気圧は西日本から沖縄・奄美を中心に張り出す。
一方、北日本付近は負偏差になっており、北日本を中心に低気圧や前線の影響を受けやすい。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 北日本太平洋側、東日本、西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 西日本太平洋側では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

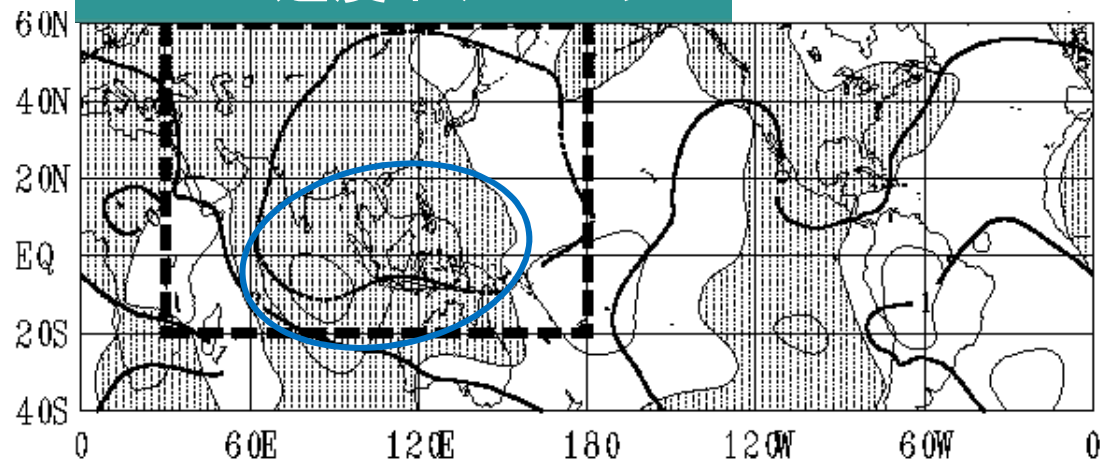
<気温>

- ・全国的に太平洋高気圧や移動性高気圧に覆われやすく、暖かい空気に覆われやすいため、高温。北・東・西日本では気温がかなり高い見込み。

<天候>

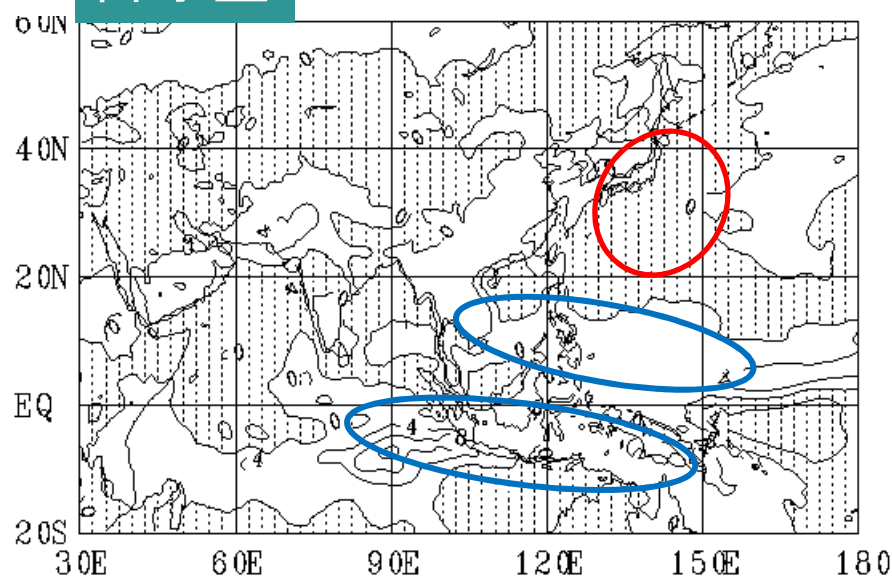
- ・北日本では、低気圧や前線の影響で多雨傾向。一雨が多い見込み。
- ・高気圧に覆われやすいため、東日本日本海側では多照傾向で降水量は平年程度。東日本太平洋側と西日本では少雨傾向多照または少雨傾向多照傾向。沖縄・奄美では少雨傾向で日照時間は平年程度。

200hPa速度ポテンシャル



インド洋東部からインドネシア付近で上層発散偏差。

降水量

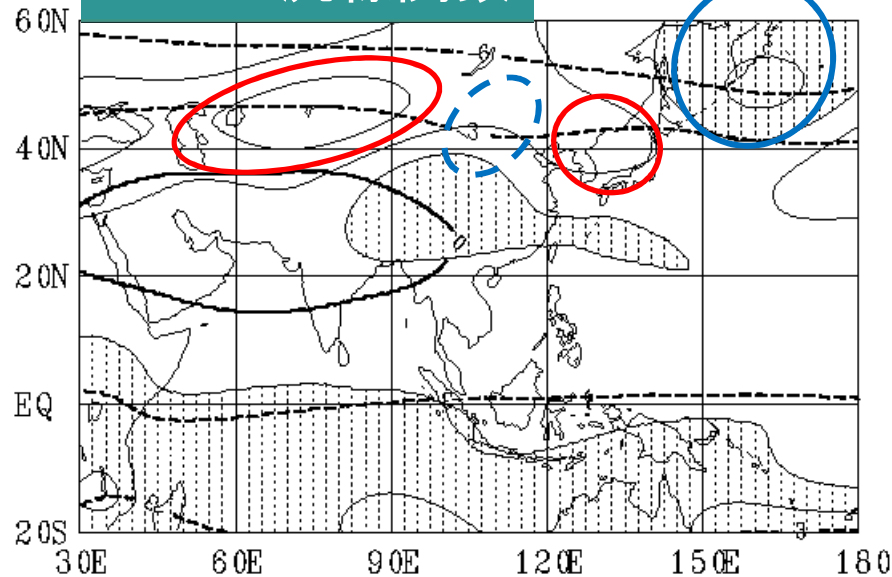


インド洋熱帯域の南東部からインドネシア付近と、フィリピン付近からフィリピンの東で多雨偏差。

日本付近は、東・西日本太平洋側や沖縄・奄美を中心に少雨偏差。

予報資料の解釈 2週目(8/30~9/5)

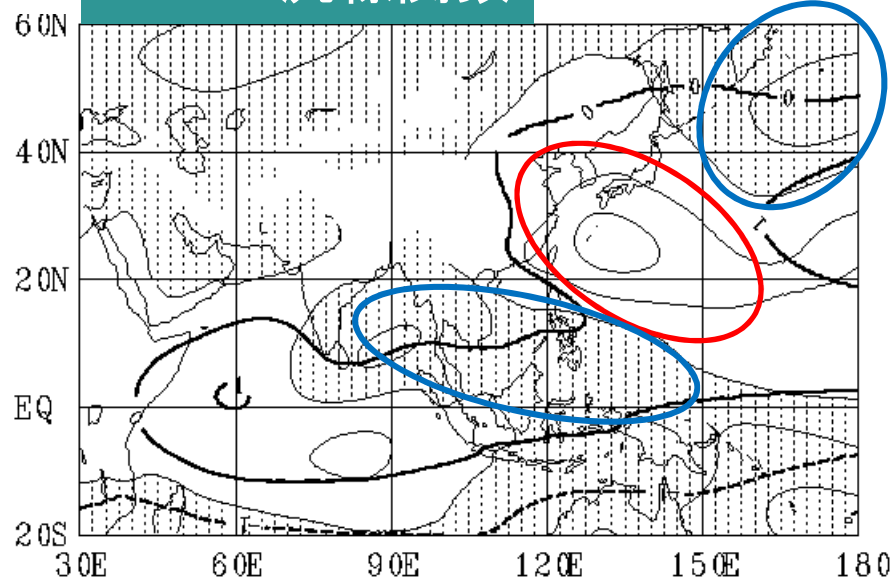
200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の影響により、中国東北
区から日本海付近で高気圧性
循環偏差。

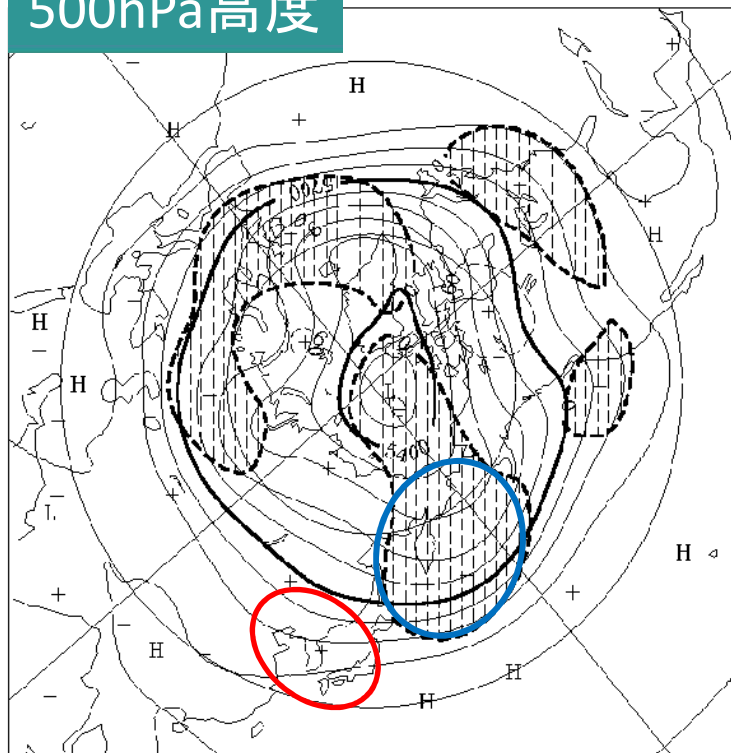
カムチャツカ半島付近で低気
圧性循環偏差。

850hPa流線関数



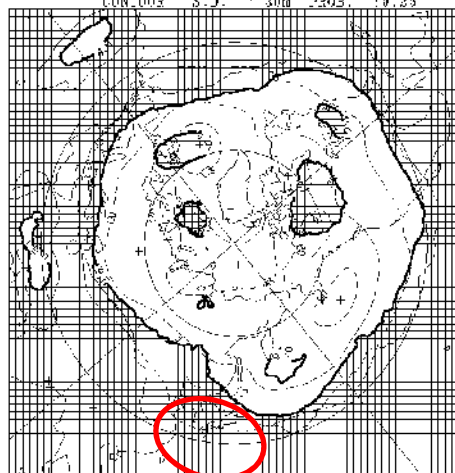
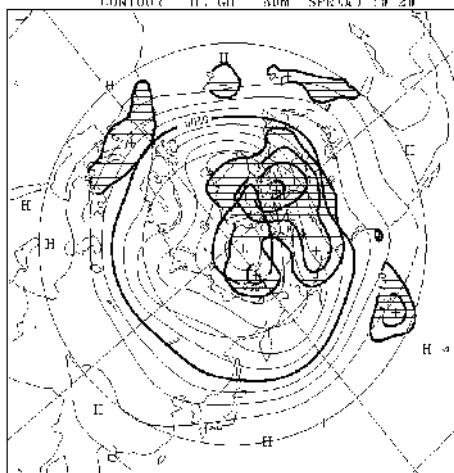
インド洋東部からフィリピンの
東にかけて低気圧性循環偏差。
日本の南から西日本付近にか
けては高気圧性循環偏差。本
州付近は順圧的な高気圧性偏
差。この高気圧性循環偏差の
位置は1週目よりやや東になり、
沖縄・奄美から西日本付近を
覆う。カムチャツカの東で低気
圧性循環偏差。

500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT

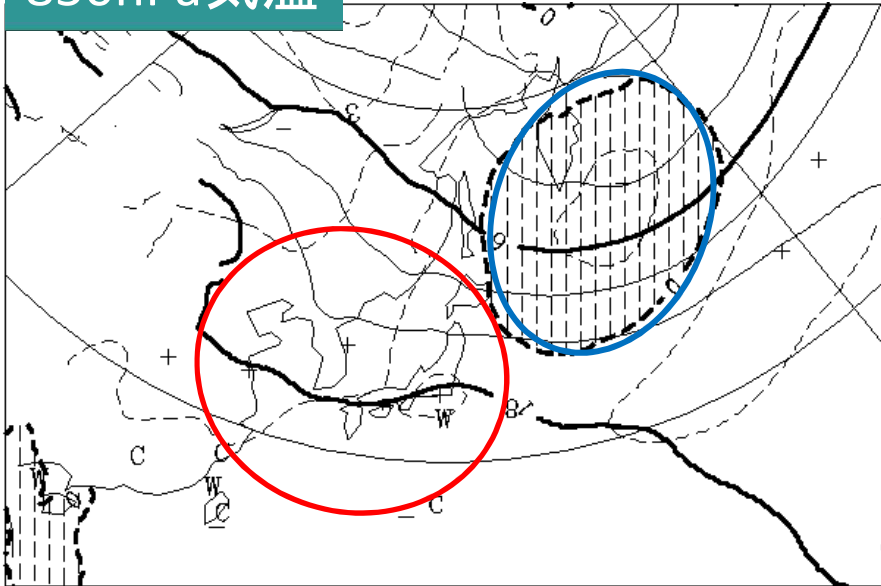
PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の影響により、朝鮮半島付近の正偏差とカムチャツカ半島付近の負偏差が維持される。

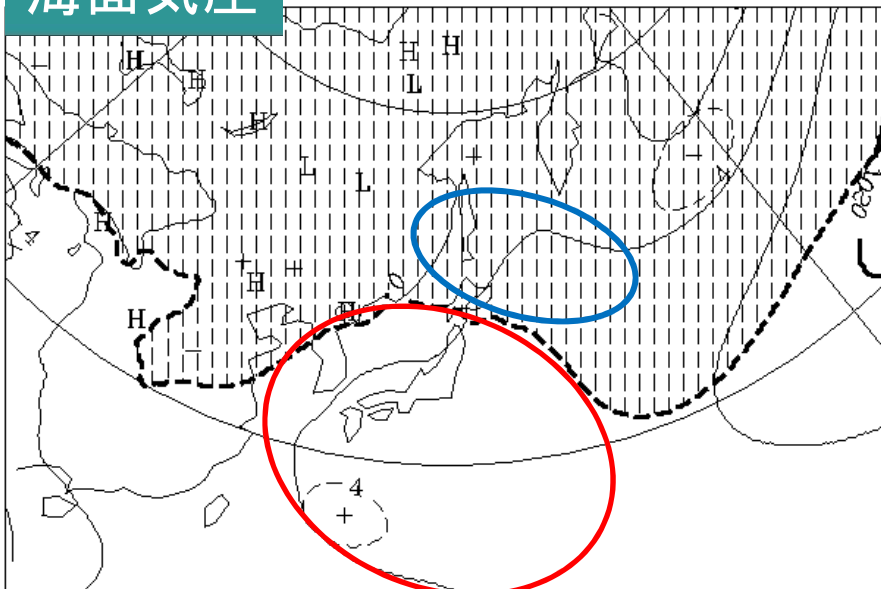
日本付近は正偏差に覆われる。一方、カムチャツカ半島から千島の東では負偏差域が広がる。日本付近は北海道を除き、正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

850hPa気温



日本付近は正偏差域に覆われる。千島近海から日本の東に負偏差域が広がるが、周辺海域の海面水温が高いことから、地上気温は下がりにくい。

海面気圧



本州付近から沖縄・奄美付近にかけて正偏差で、高気圧に覆われやすい。日本の東海上に中心を持つ太平洋高気圧は1週目より本州付近での西への張り出しがやや後退し、西日本を中心に張り出す。一方、北日本付近は負偏差になっているが、平年からの隔たりは小さい。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 北日本太平洋側、東日本、西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 西日本太平洋側と沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

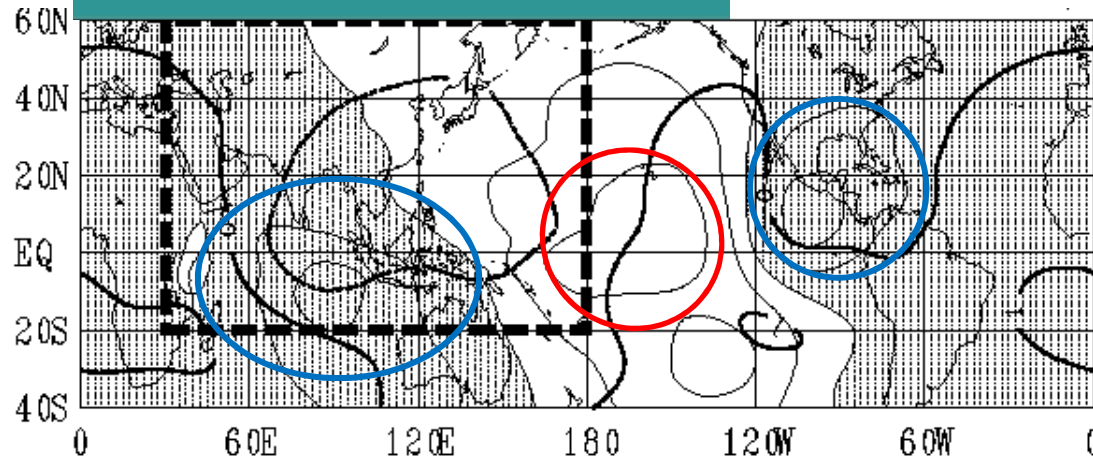
<気温>

・全国的に太平洋高気圧や移動性高気圧に覆われやすく、暖かい空気に覆われやすいため、高温。東・西日本と沖縄・奄美を中心に、気温がかなり高い見込み。

<天候>

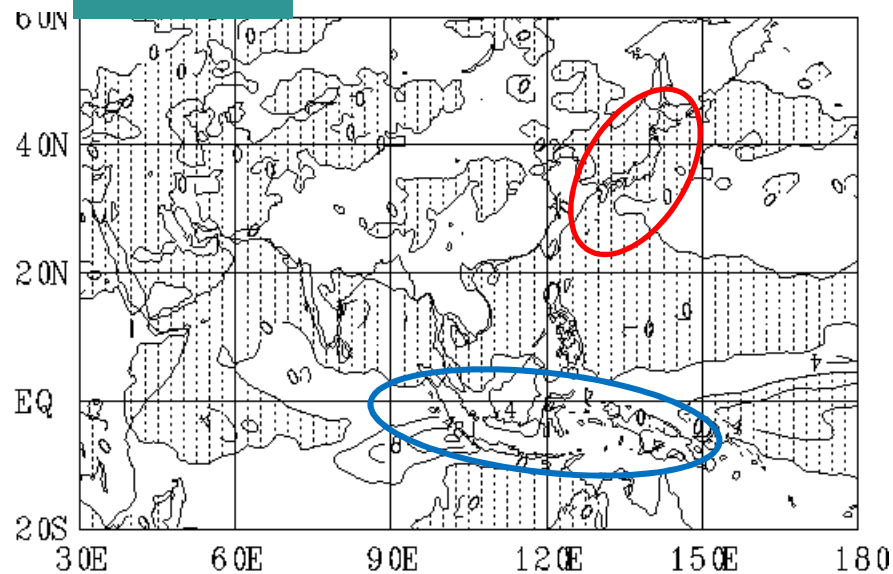
・高気圧に覆われやすいため、北日本太平洋側、東・西日本、沖縄・奄美では多照または多照傾向。また、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では少雨傾向。

200hPa速度ポテンシャル



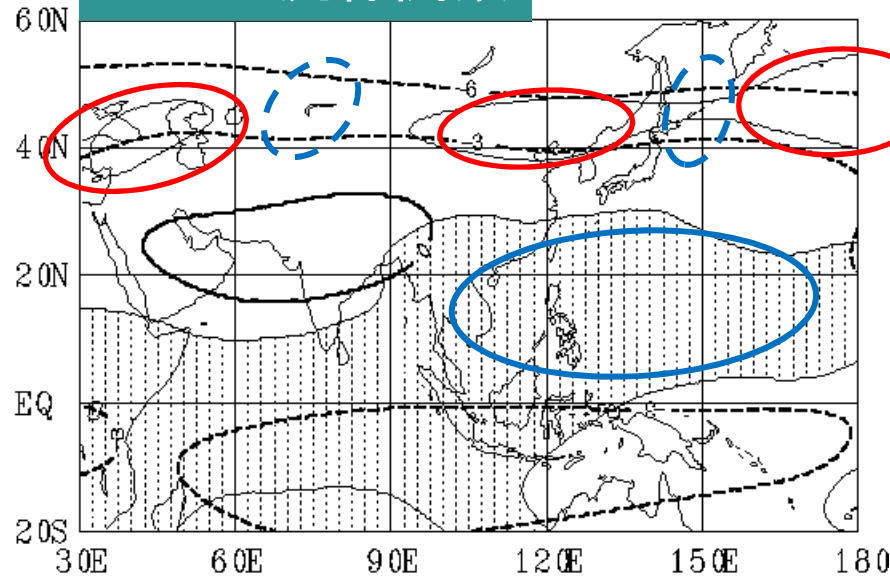
インド洋東部と太平洋赤道域の東部で上層発散偏差。
太平洋赤道域の中部で上層収束偏差。

降水量



インド洋熱帯域の南東部からインドネシア付近で多雨偏差。
日本付近は少雨偏差だが平年からの隔たりは小さい。

200hPa流線関数

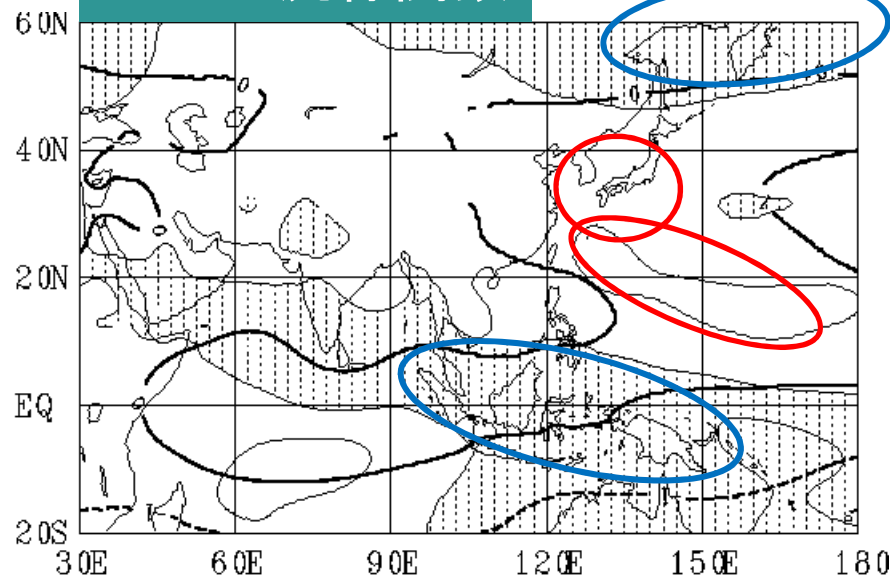


亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の影響により、中国東北区付近で高気圧性循環偏差。北日本から千島近海で相対的な低気圧性循環偏差。

亜熱帯ジェット気流は日本付近では北偏している。

一方、フィリピン付近からフィリピンの東にかけて低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

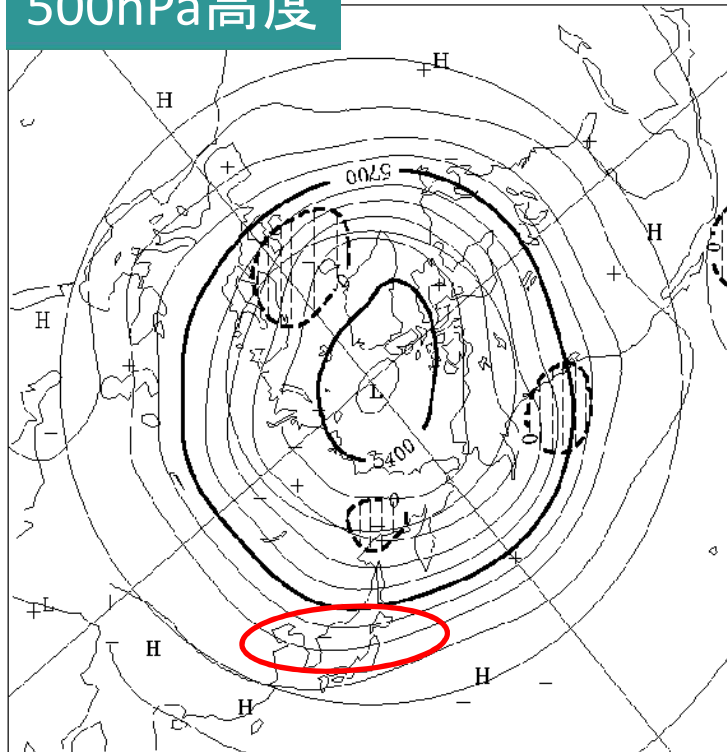


インドネシアからパプアニューギニア付近で低気圧性循環偏差。

日本の南から沖縄・奄美付近にかけては高気圧性循環偏差。本州付近は順圧的な高気圧性偏差。

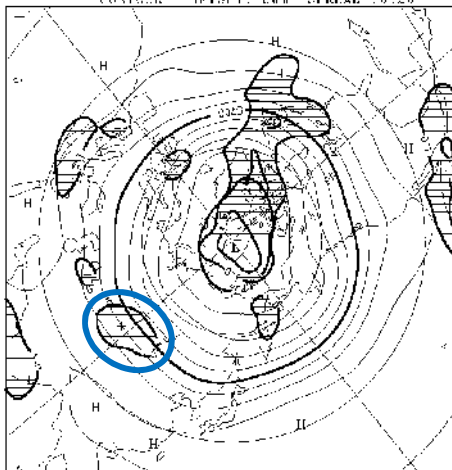
カムチャツカ半島付近で低気圧性循環偏差。

500hPa高度



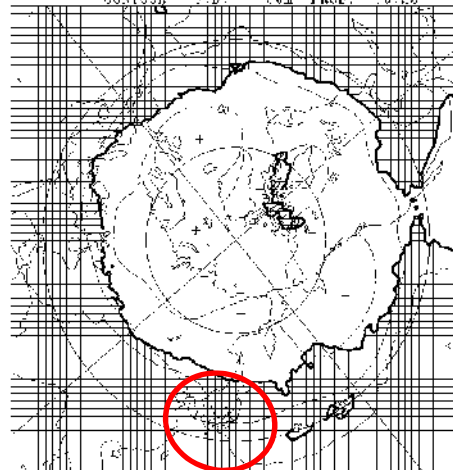
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



PROB. OF 1. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25



亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の影響により、朝鮮半島付近を中心とする正偏差が維持される。

日本付近は正偏差に覆われる。

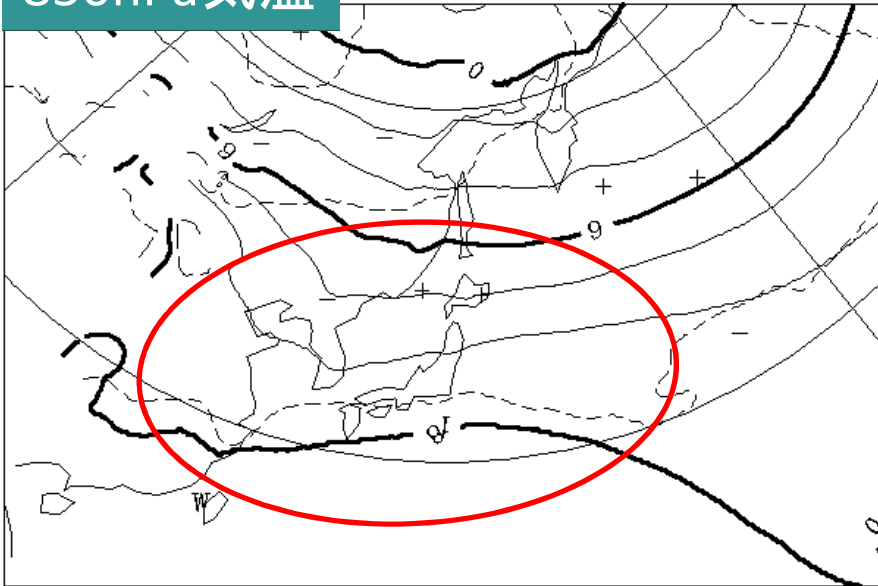
日本付近は、正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

日本の上流にあたるモンゴル付近でスプレッドの大きい領域を予測。亜熱帯ジェット気流沿いの波列パターンに予測の不確実性がある。

日本の南ではスプレッドは小さく、熱帯じょう乱などの不確実性は見られない。

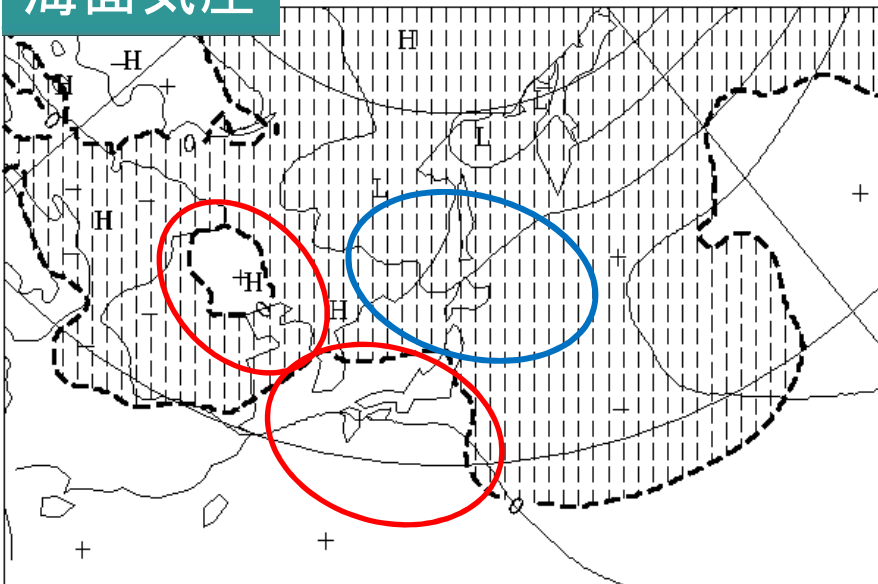
予報資料の解釈 3～4週目(9/6～9/19)

850hPa気温



日本付近は正偏差域に覆われる。

海面気圧



本州付近から沖縄・奄美付近にかけて正偏差で、高気圧に覆われやすい。一方、北日本から日本の東は負偏差になっているが、平年からの隔たりは小さい。

日本の東海上に中心を持つ太平洋高気圧は日本付近への張り出しは後退するものの勢力を残す。また、大陸で正偏差の地域があり、本州付近は移動性高気圧にも覆われやすい。

想定される天候

- ・ 北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 西日本太平洋側では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

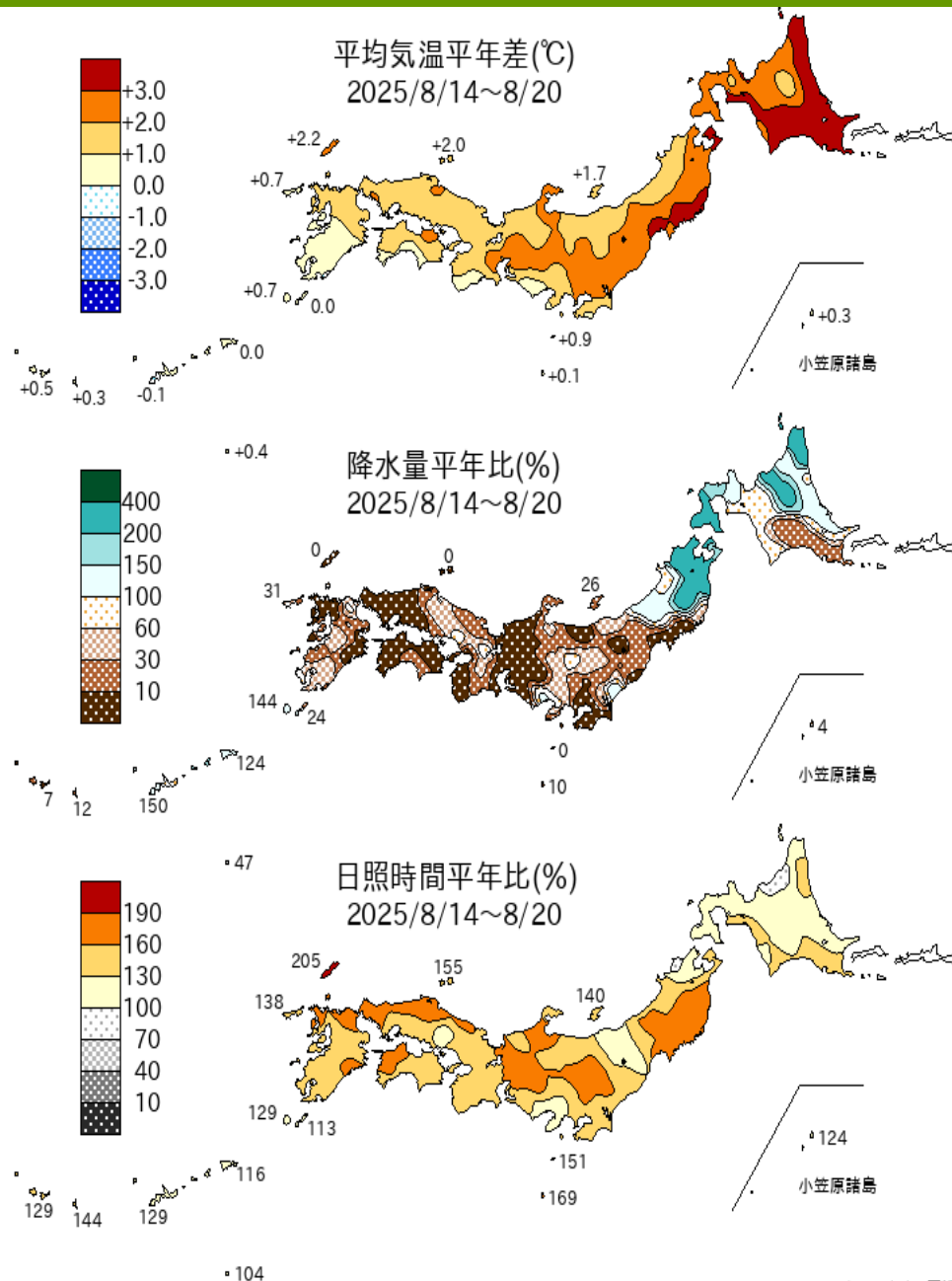
<気温>

- ・全国的に太平洋高気圧や移動性高気圧に覆われやすく、暖かい空気に覆われやすいため、高温。

<天候>

- ・東・西日本では、高気圧に覆われやすいため多照傾向、降水量は平年程度。

最近1週間の天候経過



最近1週間(8月14日~8月20日)は、太平洋高気圧に覆われやすかったため、全国的に晴れた日が多く、日照時間は全国で平年を大きく上回り、降水量は東・西日本を中心に平年を大きく下回りました。一方、北日本付近を低気圧や前線が複数回通過したため、北日本の降水量は平年を上回り、17日や20日を中心に記録的な大雨となった所もありました。東日本太平洋側では16日に局地的な雷雨で記録的な大雨となった所もありました。気温は、日本付近に太平洋高気圧が張り出し暖かい空気に覆われ、また、低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込んだため、北・東・西日本を中心に平年を上回り、猛暑日となった所もありました。